

令和6年1月18日実施

令和5年度全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会保護者中央研修会

相談役挨拶

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長の伴でございます。はじめに、令和6年能登半島地震で被災された方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。能登半島のある石川県においてはもちろん、新潟県、富山県などにおいても被害が出ていると聞いています。雪の季節でもあり、暖かく安心にお過ごしになってほしいと痛切に願っております。

また昨日は、阪神淡路大震災から29年を迎えました。日本各地で起きた様々な災害の記憶と共に私たちは生きています。辛く悲しい記憶を乗り越え、現在、そして未来へと生きていく上で、子供たちの存在が何よりの活力になる、そのように思います。

子供たちは毎日新しいできごとや人々に出会い、刺激を受け止め、自ら考え行動しています。毎日が学びです。子供たちが見せる真剣な顔、できた、わかった時に見せる笑顔、これらに接した時の清々しい思いが周囲の大人に元気ややる気をもたらしてくれます。つくづく思うのですが、子供たちに何かしてあげよう、してあげなくてはどう思う以上に、私たち大人は、子供たちからとても大切なものを受け取っているのではないのでしょうか。

そして密かに、肢体不自由のある子供たちが周りに発してくれる「大切なもの」に接することができる。私たちは本当に貴重な成長の機会をもらっているのだなあと考えています。

私たちは、子供たちを真ん中にして集まった保護者と教師の集いです。子供たちへの感謝と敬意をもって、この子供たちの素晴らしさを社会全体の皆さんに伝え広めていけるよう、努めてまいりましょう。

本日は三室秀雄先生を講師にお迎えしての研修会です。皆さん楽しみにお集まりになったことと思います。今日の研修を存分に味わってください。そしてここで得た元気、やる気を、本日参加が叶わなかった方々にも、ぜひ届けて差し上げてください。全肢P連はつながりを大事にする組織です。今日ここで集まった皆さんの向こうには、その10倍、100倍もの仲間がおられます。どうかよろしくお願ひします。

本日の研修会、本年の活動につきまして重ねてのご協力をお願いし、相談役の挨拶といたします。